

介護事業者向け情報紙

在宅から施設、周辺産業まで

# 週刊 高齢者住宅新聞

Elderly Press Newspaper

2023年 12月20日

第741号 毎週水曜日発行

(株)高齢者住宅新聞社  
東京都中央区銀座6-12-15  
03-3543-6852(編集部)  
発行人 網谷敏数  
年間購読料 23,100円

## 超高齢社会逆手に成長へ

### 課題解決で新産業創出

#### シニアビジネスの未来 特別対談



林芳正 内閣官房長官

ています。コミュニケーションロボットなども生まれていきます。世界に先駆けて高齢社会に突入した国として、これらの技術を他国に輸出できれば、1つの介護ビジネスになるでしょう。

**岡本** 日本が保有する介護データにも注目しています。

**林** やはり現場を持っているというのは強いですね。

**岡本** 日本はAIのコア技術ではGAFAMには勝てませんが、高齢者AIやリハビリAIという巨大で精緻なデータを持つ領域のAIでは勝つことが可能です。世界の先進国において、高齢化は環境やエネルギーと並ぶ大きな課題です。産業として発展すれば大きな収益源となるでしょう。産業領域として自動車産業より大きなものになるのではないかと考えています。

**林** 新しい成長分野を作るといのは重要でしょう。外務

省が推進に携わっていたことがあります。その前の農林水産大臣時代には、大きなガラス張りの温室内に大量のCO<sub>2</sub>を集め、それを植物の光合成で大量のO<sub>2</sub>に変えるという取り組みをオランダで観察しました。

**岡本** 従来、環境保護は成長に対する負担だと思われていたが、いわば「逆転の発想」でCO<sub>2</sub>が収益源になるという産業を生み出したといえます。

**岡本** 発明というとAIやロボットなど工学系を連想してしまいがちですが、高齢者がむしろ介護現場で重要な働き手になるような介護手法や、そのための先端機器の発明など、CO<sub>2</sub>を邪魔者から収益源に変えたような発想の転換こそが必要だと思います。

まうのか、というのはアメリカで学生生活を送っていた時に目の当たりにしました。皆保険という制度だけは守らなければならぬというものは私の政治家としての原点の1つです。

**岡本** 介護保険制度の運営は、どのように行っていくべきか、という点で重要な課題があるように思います。

### 地域で先端的な挑戦を 住民主導の活動啓発

**林** 制度の持続可能性を高めなければならないことを考えると、「どこまでを公的な保険で支援するか」という最低ラインを定めていかなければなりません。今後、保険外サービスを組み合わせるケアを行うことは必須になるでしょう。

**岡本** 介護領域のビジネスの発展も望まれるところですね。

**林** 日本では移動や移乗を支える器具やロボットなどの分野が、世界と比較しても優

他国に先駆け高齢社会に突入した日本には、豊富な介護データが蓄積されている。介護データを現場主導で、そして地域主導で活用していくことが高齢者ケア、さらには介護ビジネス全体の発展につながる。農林水産大臣や外務大臣などを歴任しながら、介護問題にも精通した林芳正官房長官とバケアの岡本茂雄CEOに対談してもらった。(10月31日取材)

**岡本** これからの高齢者に係る政策について、どのようにお考えでしょうか。

**林** 2025年に団塊の世代が後期高齢者に差し掛かり、後期高齢者世代がどんどん下の世代に移っていきます。より先を見据えた高齢者ケアを考えなければならないでしょう。例えば、昭和の54歳と令和の54歳は身体状況、健康状態



バケア 岡本茂雄 CEO

大臣に就任する前、日本産業の成長戦略の責任者を3年ほどしていたときに、GX(グリーン・トランスフォーメーション)の融合という可能性も拓けますね。

**林** 老化を戻す研究も行われています。日本はデータと現場を持っているので、そうしたエイジングの研究も可能でしょう。現場は地域の中にあるので、先端的なトライアルを地域主導で進めるとスピード感をもって研究できると思います。各地域の高齢者の健康状態などを比較し理論的に検証することで、エイジング研究はより立体的になるでしょう。介護保険は、各地域が色々な取り組みを試すことができる設計になっているのでそれを活用すべきです。

**岡本** 介護業界では、ややもすると関係団体が政治や厚生労働省に陳情することが多いですが、事業者自らの発想で事業を創出し、また実行していく力も必要です。



対談は日本産業の発展にも及んだ

### 「指標には乗らない価値」 どれだけ増やせるか

**林** 介護事業は「利用者本位」「地域本位」で構築されていくべきでしょう。

**岡本** 介護するだけでなく、自立生活を可能にするケアをも突き詰める必要があります。オランダの訪問看護では12週間訪問看護を卒業し、自立することを目指しています。非常に自立への志向が高いです。

**林** 日本でも「ここに入れば必ず介護度が改善する」といった施設を生み出す必要があるでしょう。

**岡本** 地域でという話が出ましたが、地域に起る独自の住民主導の運動にも注目ですね。

**林** 徳島県上勝町から始まった、「葉っぱビジネス」というものがあります。高齢者がきれいな落ち葉を拾い、それを料理の飾りに使う料亭などに売るといいます。自分が拾った葉がお金になることが、地域の高齢者の社会参加や活動へのインセンティブになったようです。葉を拾う過程では盛んなコミュニケーションセッションも生まれ、結果的に病気が減っています。

**岡本** 成熟した社会においては、行政は地域に住民運動が起るようなサポートをすることが重要です。

**林** 住民が「自発的・内発的・能動的」に取り組むことが、住民の健康状態の向上につながるでしょう。市町村の権限を一部自治会に移し自治会主導でこうしたいろいろな取り組みができるようにするなど、行政のあり方も問われます。

**岡本** 様々な業界のキャリアを持った人が、住民運動として介護に携わることが業界発展を促すかもしれません。

**林** ワシントンでは「今何の帽子をかぶっているの？」と尋ねる文化があります。帽子とは職業や肩書を指しますが、短期間で職を変える人や、兼業する人が多いということ。「ライフ・シフト」著者のリンダ・グラットンが言ったように、人生100年時代、人の学び方、仕事の仕方は大きく変わるでしょう。日本は大学に通う人の平均年齢がOECDで最も低いことが分かっています。年を重ねても教育機関で学んだり、職業を変えながらキャリアを積んだり、日本でももっと人材の循環が生まれるといいですね。

**岡本** 最後に介護産業含め日本産業の発展に向け、重要とお考えのことを教えてください。

**林** GDPだけでは、経済成長を測ることはできないでしょう。これからは、GDPに反映されない「満足感」といったものが重要だと考えています。レコード一枚2500円の時代から、800円で音楽が聴き放題の時代になりましたが、これで消費者が受け取る価値が800円まで減ったかといえはそうではない。GDPを上げるために1700円分レコードの生産を増やそうとなると、経済政策はおかしな方向に向かいます。指標には乗らない価値をどれだけ増やせるか、という考え方が重要という気がしています。

**岡本** 幸福度を可視化するというテクノロジーの発展も、指標に乗らない価値を増やす追い風となりそうですね。